

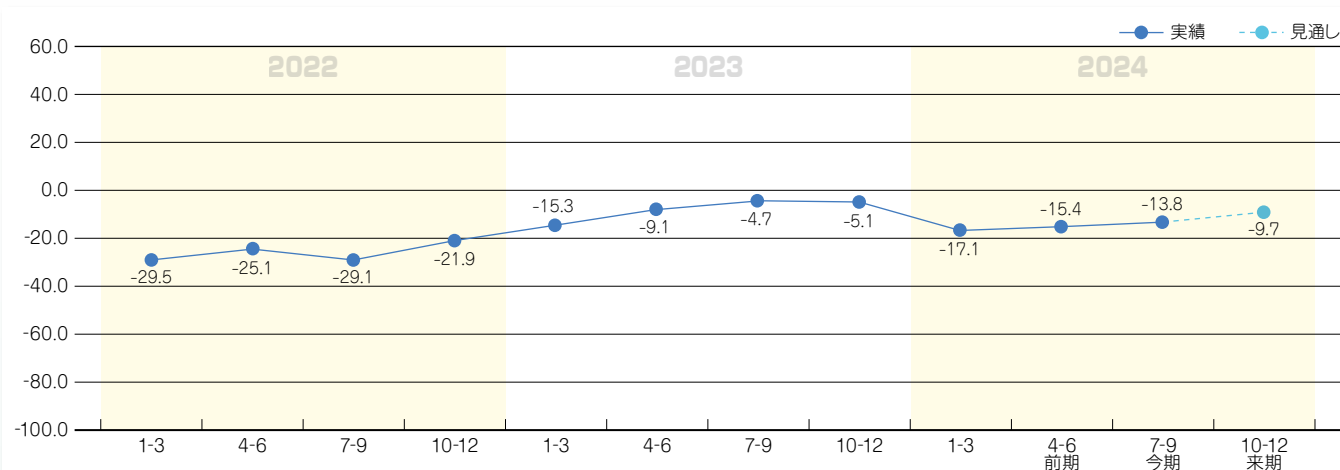


全業種

回答数320社

今期の業況D-Iは、前期比1.6ポイント上昇の▲13.8と改善した。業種別では、製造業と卸売業、小売業は改善の一方で、サービス業と建設・不動産業は悪化。来期の予想業況D-Iは、4.1ポイント上昇の▲9.7。小売業は悪化を見込むが、その他の業種は改善を見込む。また、すべての業種で人手不足感が強まることを見込まれている。

前期実績 今期実績 来期見通し

業況D-I
の推移

主要D-Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

実績 見通し



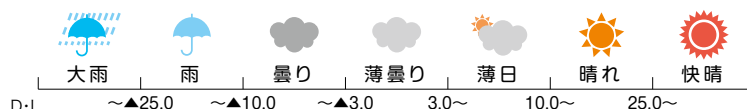
へきしん取引先景況調査とは

本調査は、地域および業種の景気実態および景気予測(景況)を把握するため、四半期ごとに当金庫の取引先企業様にアンケート調査を実施し、回答をいただいたものです。

調査
概要

実施時期 2024年9月2日～6日
対象企業 320社
対象地域 西三河および尾張南部を中心
とした当金庫の営業エリア

天気図の見方



D-I(ディフュージョン・インデックス)とは…業況(業界の景気)等を判断するための指数であり、(良いまたはやや良いと答えた割合)－(悪いまたはやや悪いと答えた割合)で求められます。



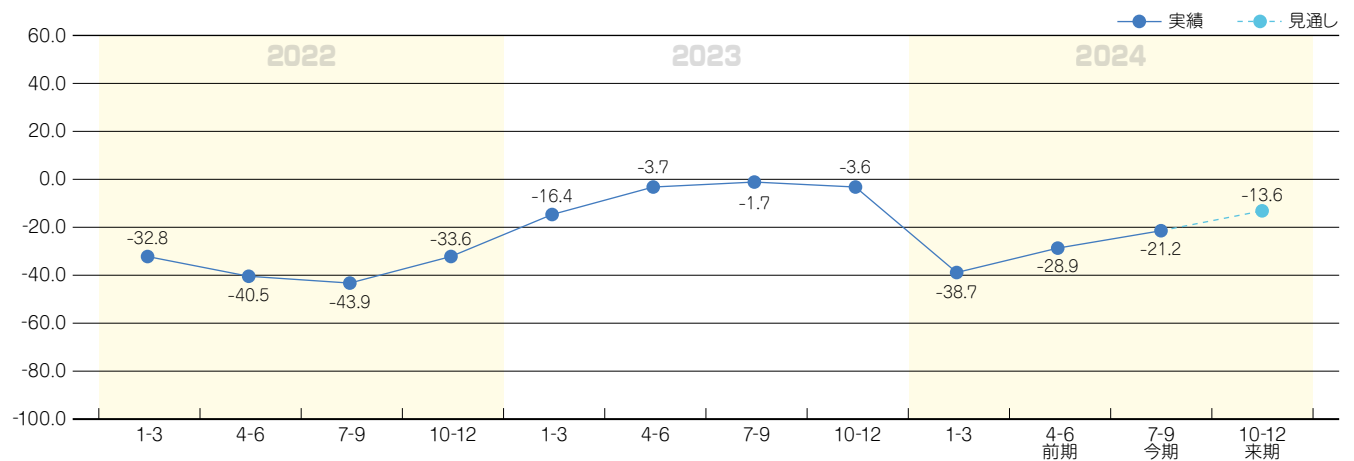
製造業

回答数118社

今期の業況D・Iは、前期比7.7ポイント上昇の▲21.2と、2期連続で改善。売上、収益とも改善傾向であるが、自動車業界での工場稼働停止や長引くコスト高などの影響により、依然として厳しい状況が続いている。来期の予想業況D・Iは7.6ポイント上昇の▲13.6。新製品開発や自動化など様々な取り組みがなされており、売上や収益の改善が見込まれる。

前期実績 今期実績 来期見通し

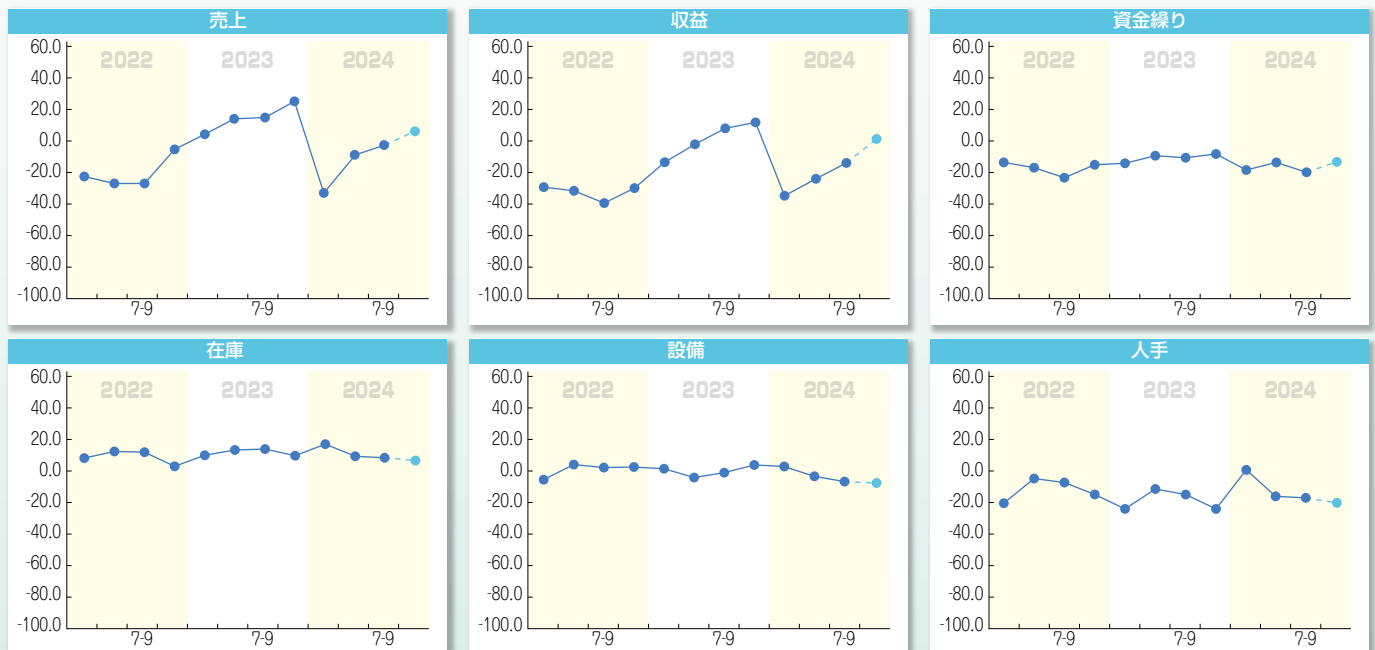
業況D・Iの推移



主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

● 実績 ● 見通し



- トヨタ自動車の工場稼働停止による影響は避けられないため、不安定。(自動車部品製造)
- 薄利な受注はなるべく避けるなど、収益性を意識した活動をしていく。また同業者の動向に気を付けている。(家具製造)
- 浴衣ブランドを立ち上げ、少しずつ問い合わせが増えている。海外向けにも営業強化しており、今後越境ECにも取り組んでいきたい。(繊維製品製造販売)





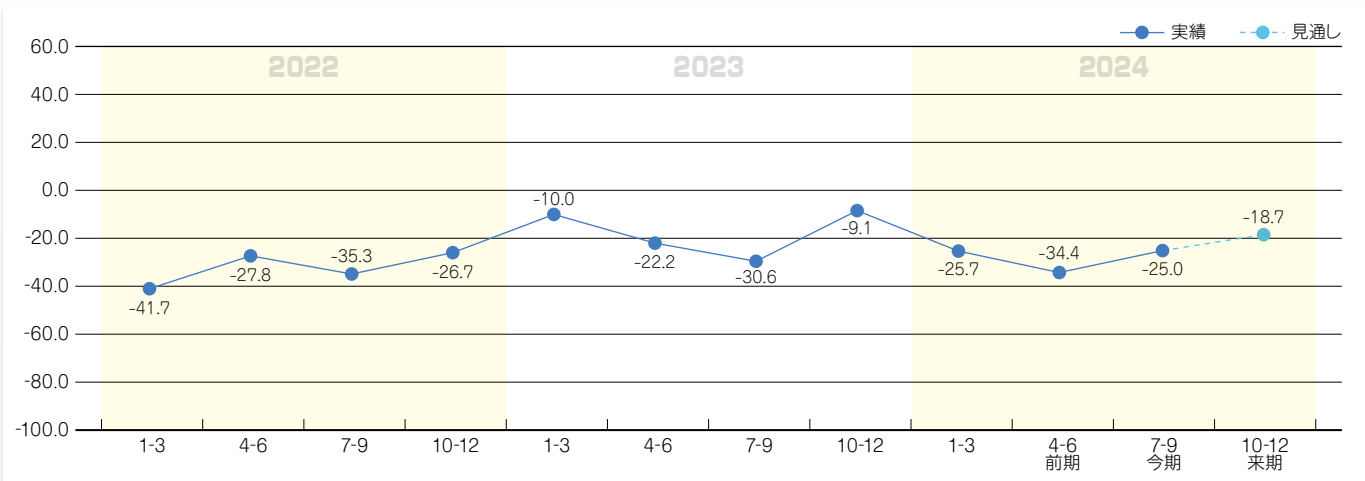
卸売業

回答数32社

今期の業況D・Iは、前期比9.4ポイント上昇の▲25.0。3期ぶりに改善したものの、仕入価格や人件費などコスト高が重荷となり業況は依然厳しいことがうかがえる。猛暑や台風などにより売上が減少したとの声も聞かれた。来期の予想業況D・Iは6.3ポイント上昇の▲18.7と、来期も改善の見通し。経費削減などによる収益の改善が見込まれる。

前期実績 今期実績 来期見通し

業況D・Iの推移



主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

● 実績 ● 見通し



- 猛暑の影響により主力商品のガスの売上が前年の90%程度で推移したため売上は減少傾向。また、人件費やリース料の増加が利益を圧迫している状況。(石油・ガス卸売)
- 物価高騰やランニングコスト増加の影響を受けたものの、価格転嫁実施や経費削減により利益捻出。受注も安定推移。(鋼材卸売)
- 従業員1名減により更に人手が減少。こなす仕事を増やすため人材採用が急務である。(砂・碎石卸売)



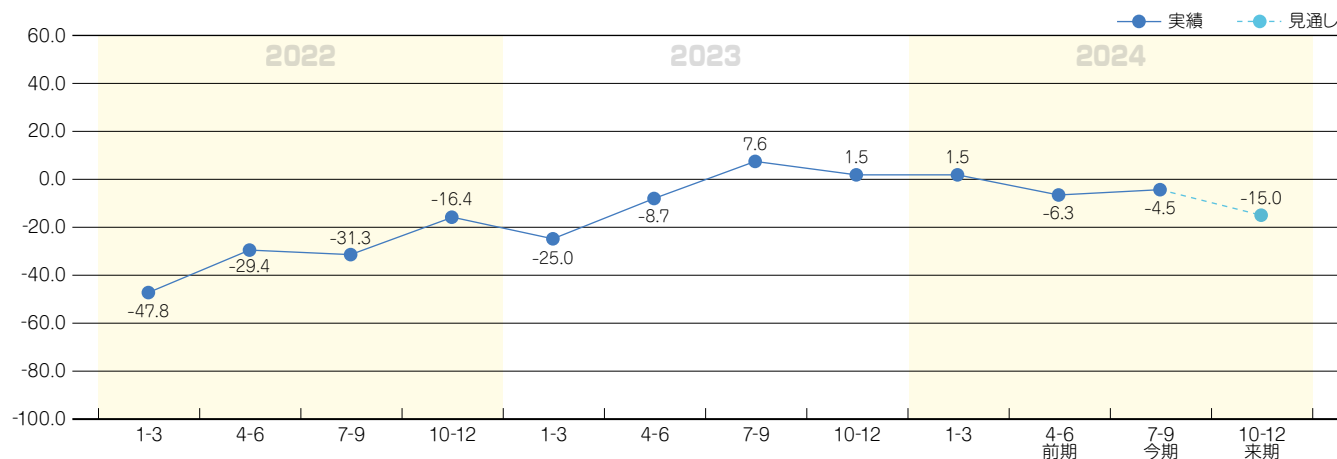
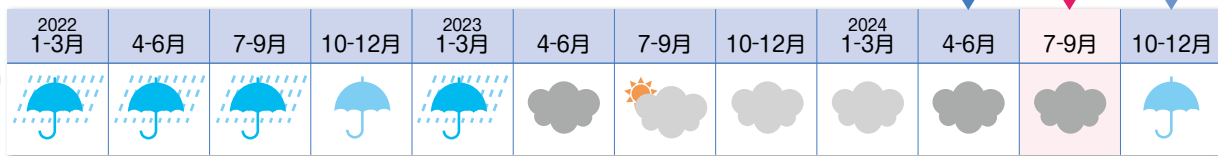
小売業

回答数67社

今期の業況D・Iは、前期比1.8ポイント上昇の▲4.5。業況はわずかに改善したものの、収益は大幅に悪化しており、依然多くの企業が仕入価格高騰の影響を大きく受けていることがうかがえる。来期の予想業況D・Iは10.5ポイント低下の▲15.0。収益改善に向け取り組む企業が多いが、売上の減少や資金繰りの悪化を懸念する声もあり、業況は悪化の見通し。

前期実績 今期実績 来期見通し

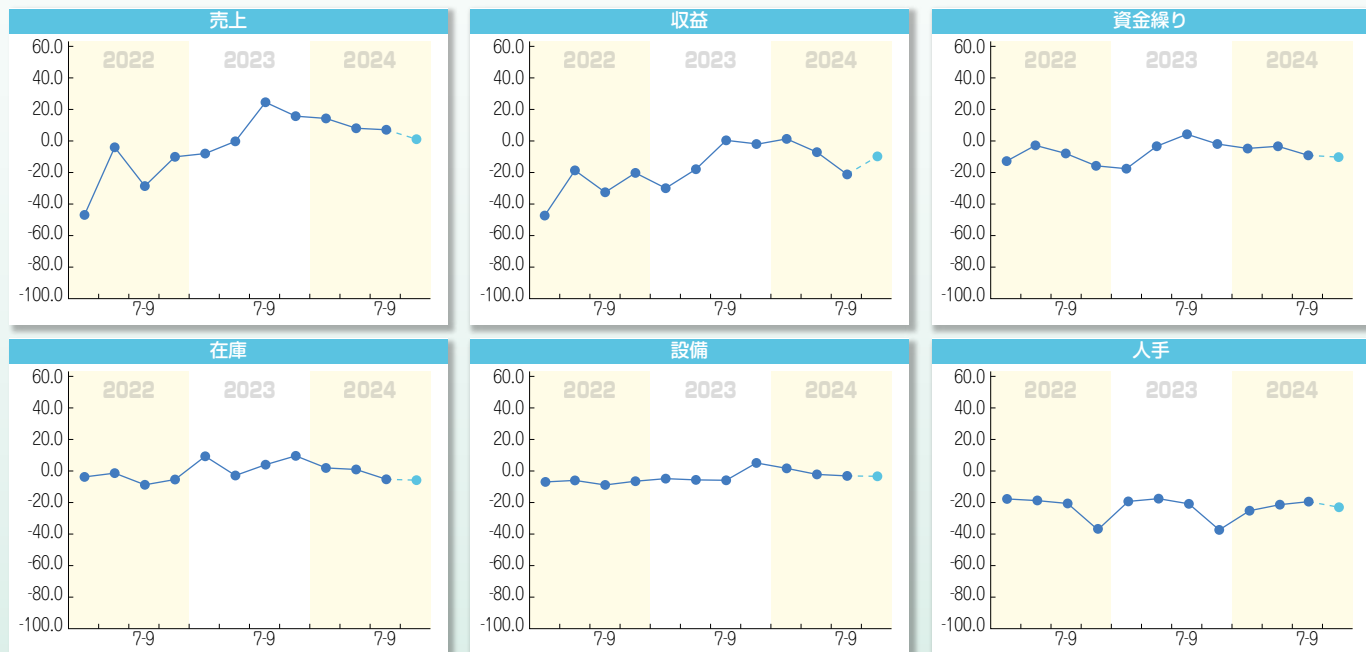
業況D・Iの推移



主要D・Iの推移

(注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

実績 見通し



- トヨタ自動車の工場稼働停止の影響もあり、車両の納期が遅れ気味。決算に影響がありそう。(自動車販売)
- 米の仕入れが困難な状況が続いていたが、改善。仕入価格が高騰しており、今後の資金繰り悪化を懸念。(米穀店)
- 販路開拓や、商店街の活性化など利益確保へ向けさまざまな対応に追われている。(精肉店)





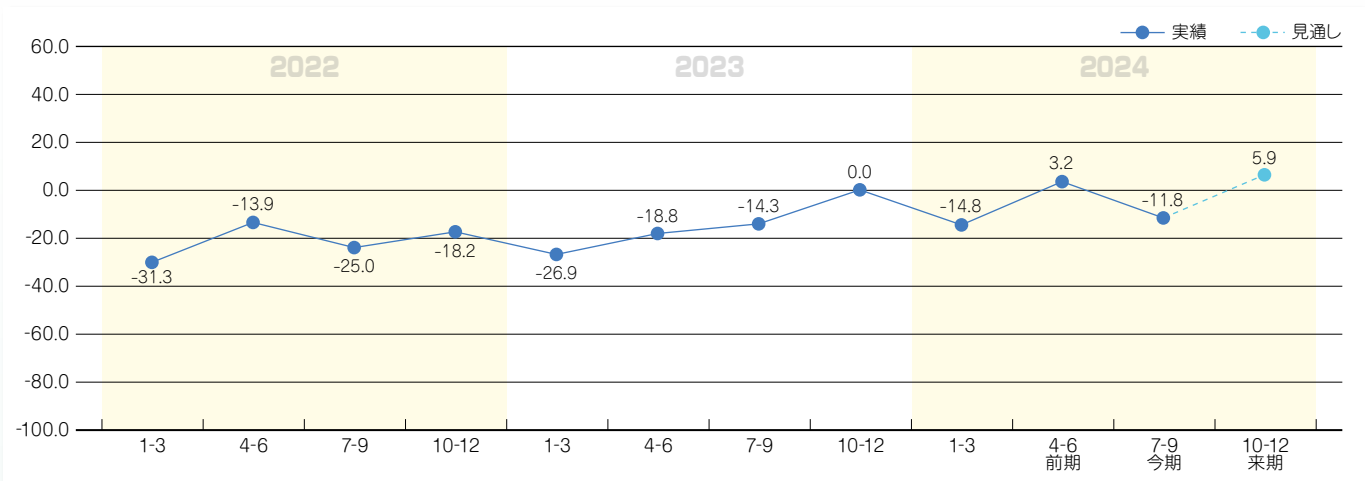
サービス業

回答数34社

今期の業況D・Iは、前期比15.0ポイント低下の▲11.8。売上、収益ともに悪化した。人手は、改善に転じたものの依然として他業種と比べ厳しい状況。来期の予想業況D・Iは17.7ポイント上昇の5.9と、大幅に改善の見通し。サービス向上やコスト削減など売上、収益増加に向けて取り組んでいるとの声が多く、業況の改善が見込まれる。

前期実績 今期実績 来期見通し

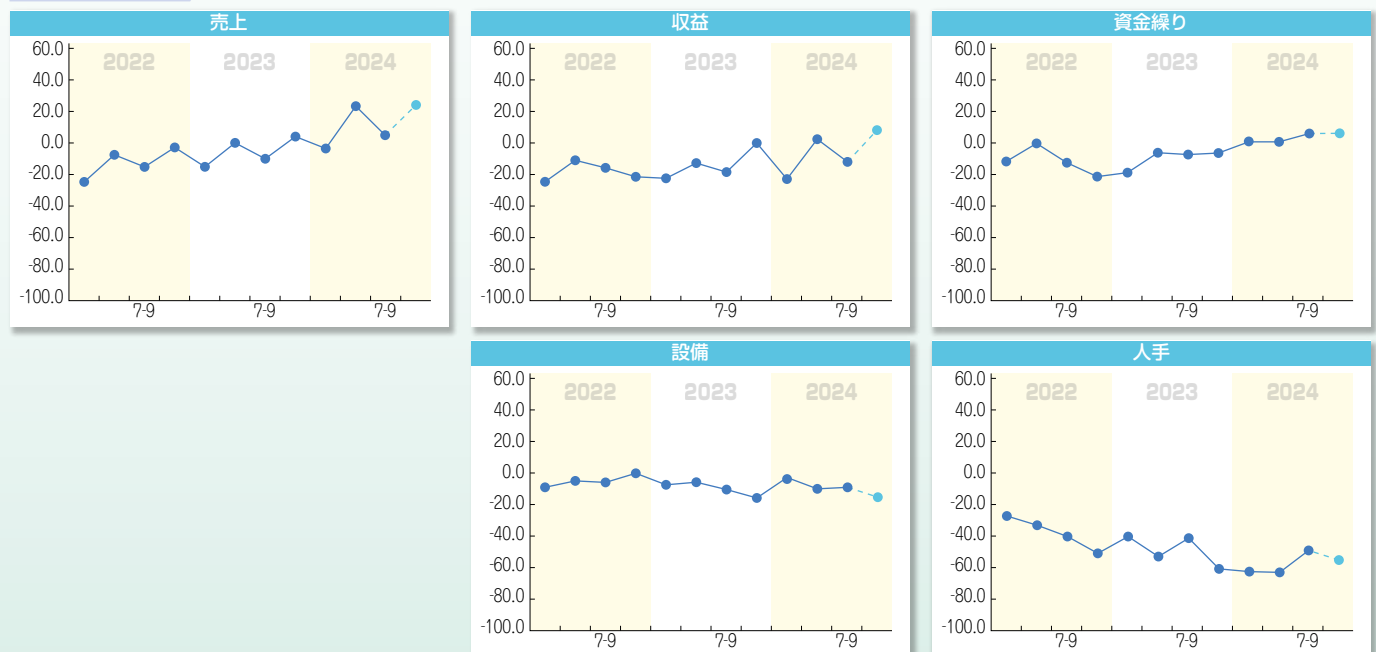
業況D・Iの推移



主要D・Iの推移

(注)設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。

実績 見通し



- 繁忙期が過ぎたため、直近の売上高は減少傾向ではあるが、前年と比べると増加。今後、店舗拡大も視野に入れ業績UPを目指す。(クリーニング店)
- 従業員を3名増員。売上増加を目指す。(税理士法人)
- 太陽光パネルを設置し、電気料金がかからないような運用をしている。(スポーツ施設)
- キャッシュレス支払いの対応が不十分だと感じている。若いお客さまを取り込むためにもQRコード決済の導入を検討。(エステティックサロン)

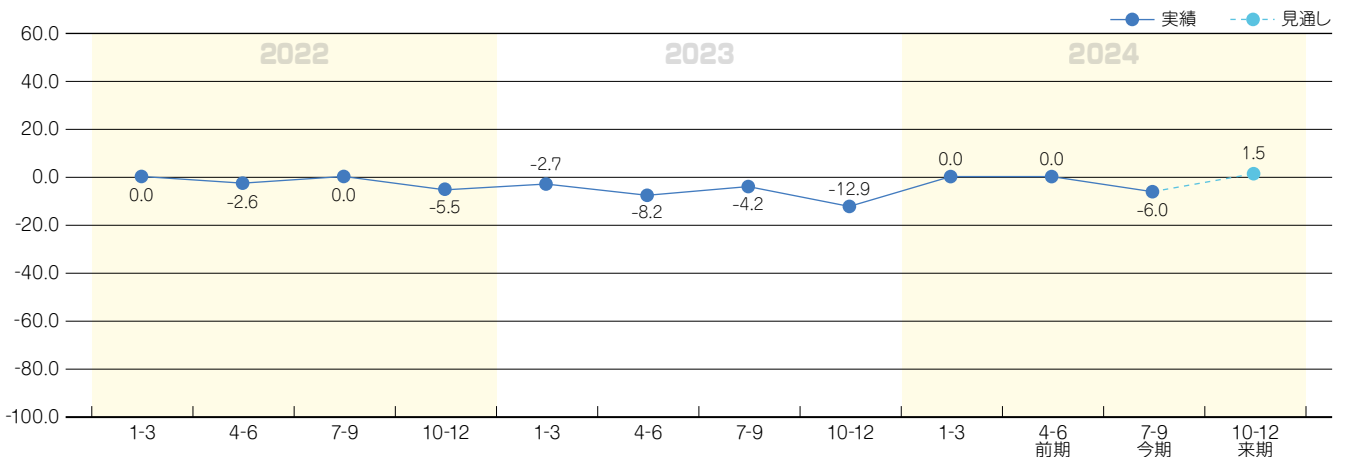


建設・不動産業

回答数67社

今期の業況D-Iは、前期比6.0ポイント低下の▲6.0と、悪化した。建設業では受注が好調との声が多いものの、人手不足感の強まりなどにより業況は悪化。一方で、不動産業では売上、収益とも改善が見られ業況は改善した。来期の予想業況D-Iは7.5ポイント上昇の1.5と改善の見通しではあるが、依然として資材価格や不動産価格の上昇に苦慮する声もある。

前期実績 今期実績 来期見通し



主要D-Iの推移 (注)在庫／設備／人手はプラスになるほど過剰、マイナスになるほど不足。



- 大型受注の獲得により今期は売上、利益ともに大幅増加。来期も多数の案件があり業況は回復してきている。(管工事業)
- 新入社員も入社しているが、まだ人手不足解消には至らず。業務効率化へ向けてデジタル化をすすめていきたい。(土木建築)
- 原価や人件費増加の影響はあるものの、商品グレードを上げるなどの工夫でうまく販売価格の引き上げが出来ている。(戸建・マンション販売)

